

スーパーマーケット販売統計調査資料

2019 年 5 月実績 速報版(パネル 270)

4 月実績 確報版(パネル 270)

(2019 年 6 月 21 日公表)

調査資料概要

【パネル 270 社集計】

食品を中心に扱うスーパーマーケットを対象に同一企業を集計

※2016 年 4 月実績よりパネル対象企業変更(275 社→270 社)

【集計項目】

商品分類別・エリア別・保有店舗別集計

集計企業数、総店舗数、総売場面積、店舗平均月商、売場1㎡あたり売上高

【速報版・確報版】

速報版:毎月21日前後に前月販売実績を速報値として公表

確報版:速報値に精度の高い集計を行い確報値として公表

【全店・既存店】

全店:前年同月全営業店舗と当月全営業店舗の比較

既存店:前年同月、当月共に営業の店舗による比較

【商品分類】

総売上高	食品合計	生鮮 3 部門	青果	野菜類、果実類、花
			水産	魚介類、塩干物
			畜産	食肉類、肉加工品
		惣菜		惣菜、折詰料理、揚げ物、弁当、おにぎり、寿司、インスタペーカーリー、ファーストフード
		日配		豆腐、こんにゃく、納豆、練製品、佃煮、漬物、パン、卵、乳製品、生菓子、冷凍食品、アイスクリーム
		一般食品		調味料、瓶詰詰、乾物、米、小麦粉、乾麺、嗜好品、菓子、酒類
	非食品		日用雑貨品、医薬・化粧品、家具インテリア、家電製品、婦人衣料、紳士衣料、文具、玩具	
	その他		テナント売上高、タバコ・ギフト販売、その他取次業 (DPE、クリーニング、宅配便、レンタル、チケット販売等)	

【地方分類】

北海道・東北地方	北海道、青森、岩手、秋田、宮城、山形、福島
関東地方	茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川
中部地方	新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知
近畿地方	三重、滋賀、奈良、和歌山、京都、大阪、兵庫
中国・四国地方	岡山、広島、鳥取、島根、山口、香川、徳島、愛媛、高知
九州・沖縄地方	福岡、佐賀、長崎、大分、熊本、宮崎、鹿児島、沖縄

※2014 年 4 月実績よりエリア区分を 8 地方区分による 6 地方に変更

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会

一般社団法人 日本スーパーマーケット協会

オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査に関するお問い合わせ

tokei@super.or.jp

2019年6月21日

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査 2019年5月実績 速報版（パネル270）

	全店売上高（万円）	構成比	前年同月比 （全店）	前年同月比 （既存店）
総売上高	89,762,404	100.0%	100.6%	99.6%
食品合計	81,268,016	90.5%	100.8%	99.8%
生鮮3部門合計	30,468,214	33.9%	100.7%	99.4%
青果	12,423,431	13.8%	101.1%	99.9%
水産	7,715,344	8.6%	101.2%	99.9%
畜産	10,329,440	11.5%	99.8%	98.5%
惣菜	9,370,238	10.4%	102.9%	101.4%
日配	17,811,402	19.8%	101.0%	99.8%
一般食品	23,618,162	26.3%	100.1%	99.6%
非食品	6,118,494	6.8%	99.3%	98.9%
その他	2,375,944	2.6%	100.4%	100.6%

地方分類別集計

エリア	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年同月比 （全店）	前年同月比 （既存店）
北海道・東北地方	12,418,678	43	100.0%	99.3%
関東地方	33,374,090	73	101.2%	100.0%
中部地方	11,099,156	53	101.3%	99.6%
近畿地方	19,050,919	44	99.9%	99.0%
中国・四国地方	9,007,328	34	100.7%	100.0%
九州・沖縄地方	4,812,234	23	98.7%	100.1%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年同月比 （全店）	前年同月比 （既存店）
1～3店舗	643,210	45	96.7%	96.7%
4～10店舗	4,171,083	77	98.4%	98.7%
11～25店舗	9,647,138	59	99.8%	99.1%
26～50店舗	16,175,888	45	100.1%	99.3%
51店舗以上	59,125,085	44	100.9%	99.9%

集計企業数（社）	270	既存店総売上高（万円）	87,650,507
総店舗数（店舗）	7,972	店舗平均月商（万円）	11,260
総売場面積（㎡）	13,208,642	売場1㎡あたり売上高（万円）	6.8

※売上高は税抜金額

※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

2019年6月21日

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

スーパーマーケット販売統計調査 2019年4月実績 確報版（パネル270）

	全店売上高（万円）	構成比	前年同月比 （全店）	前年同月比 （既存店）
総売上高	87,421,895	100.0%	100.0%	99.0%
食品合計	79,152,066	90.5%	100.5%	99.3%
生鮮3部門合計	29,778,268	34.1%	100.4%	99.2%
青果	12,080,151	13.8%	100.4%	99.3%
水産	7,619,885	8.7%	101.0%	99.8%
畜産	10,078,232	11.5%	100.0%	98.8%
惣菜	9,155,524	10.5%	102.1%	100.7%
日配	16,976,911	19.4%	99.7%	98.5%
一般食品	23,241,363	26.6%	100.4%	99.5%
非食品	5,806,993	6.6%	95.6%	95.6%
その他	2,462,885	2.8%	99.6%	99.2%

地方分類別集計

エリア	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年同月比 （全店）	前年同月比 （既存店）
北海道・東北地方	12,008,288	43	99.4%	98.8%
関東地方	32,376,369	73	100.4%	99.0%
中部地方	10,742,983	53	100.4%	99.2%
近畿地方	18,842,800	44	99.8%	98.5%
中国・四国地方	8,712,864	34	99.9%	99.1%
九州・沖縄地方	4,738,591	23	99.5%	99.7%

保有店舗数別集計

保有店舗数	全店売上高（万円）	集計対象企業数	前年同月比 （全店）	前年同月比 （既存店）
1～3店舗	624,846	45	94.6%	94.5%
4～10店舗	4,100,042	77	97.7%	98.4%
11～25店舗	9,398,155	59	99.3%	98.9%
26～50店舗	15,760,870	45	99.8%	99.4%
51店舗以上	57,537,982	44	100.4%	98.9%

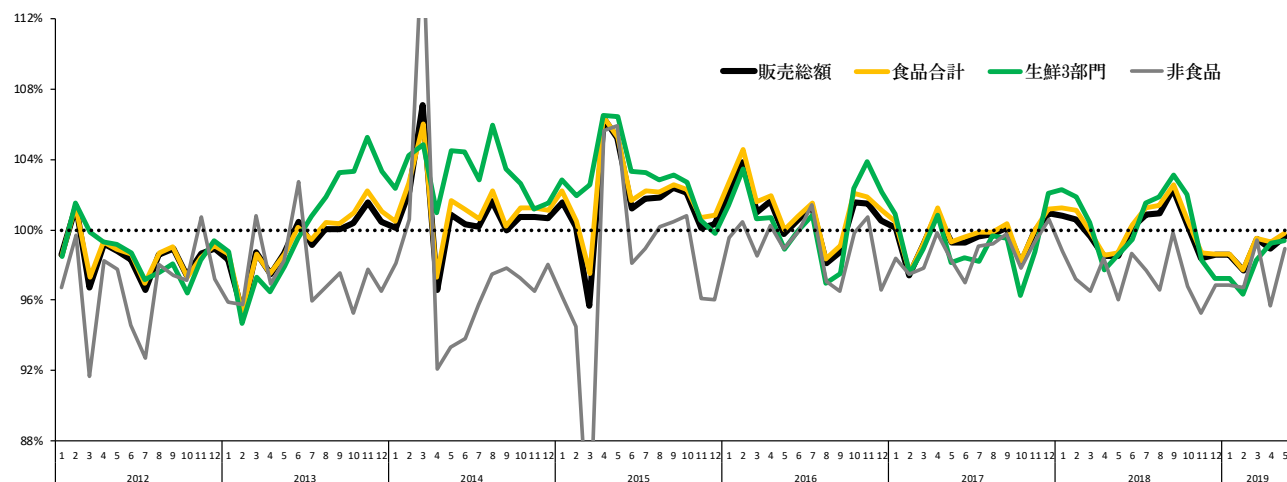
集計企業数（社）	270	既存店総売上高（万円）	84,820,392
総店舗数（店舗）	7,968	店舗平均月商（万円）	10,972
総売場面積（㎡）	13,199,848	売場1㎡あたり売上高（万円）	6.6

※売上高は税抜金額

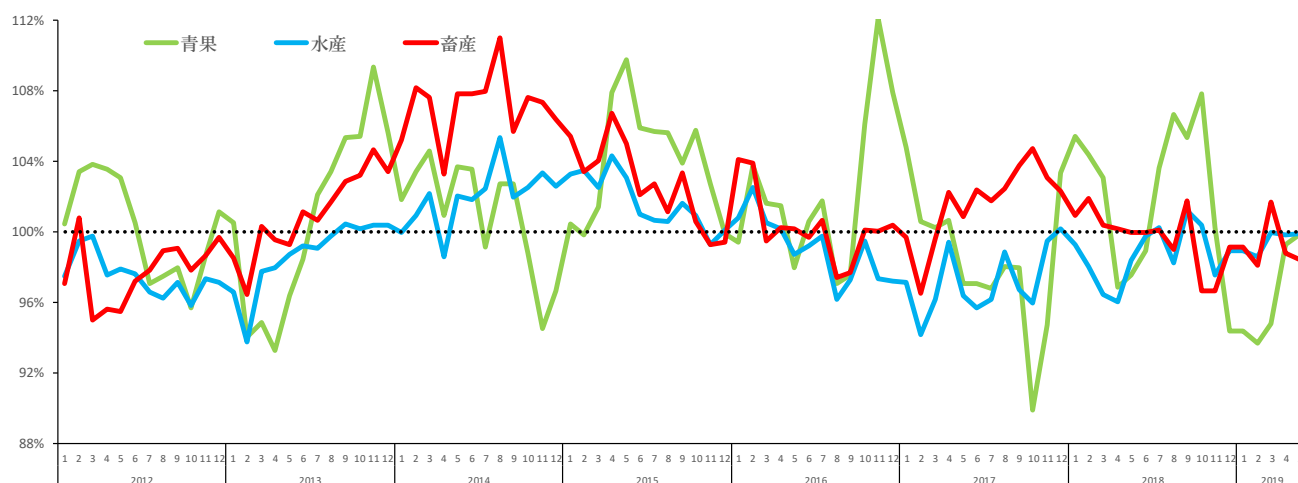
※売上高は千円以下、構成比・前年同月比は小数点第2位以下四捨五入

スーパーマーケット販売統計(パネル270) 既存店前年同月比推移 2012年1月～

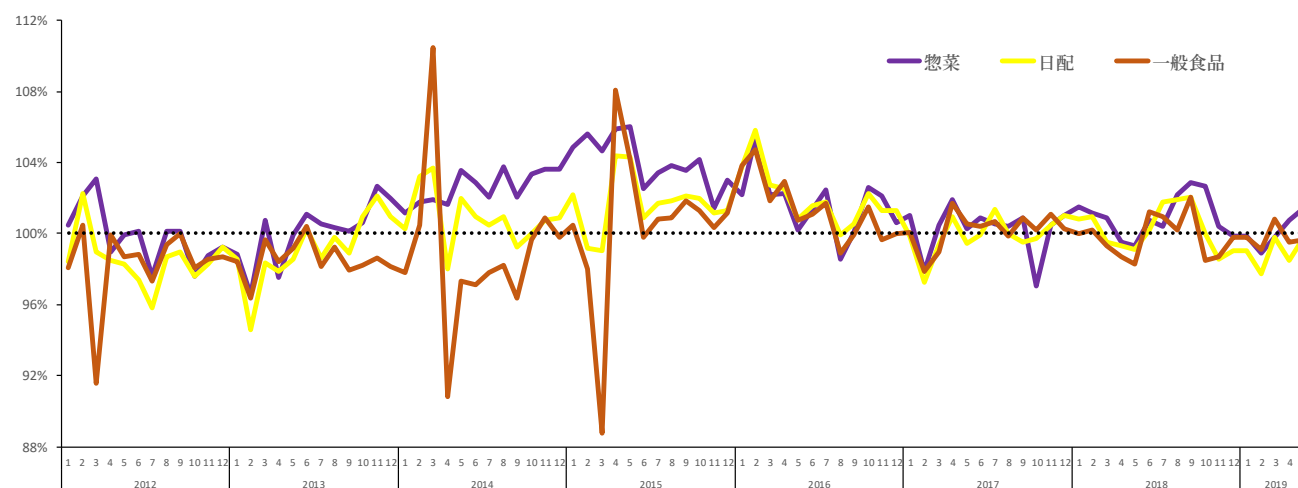
販売総額・食品合計・生鮮3部門・非食品



青果・水産・畜産



惣菜・日配・一般食品



※2019年5月実績は速報値

2019年5月エリア別気候状況

5月気温の特徴：北・東・西日本でかなり高かった

上旬：北日本で高く、東・西日本は平年並だった。沖縄・奄美では低かった。

中旬：北・東・西日本でかなり高く、沖縄・奄美で高かった。

下旬：北・東・西日本でかなり高かった。沖縄・奄美では平年並だった。

2018年5月との比較：北海道地方で特に上旬と下旬で前年よりかなり気温が高くなった。

	平年との比較（℃）						今年と前年との差（℃）		
	2019年5月			2018年5月（前年）			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北海道地方	1.7	2.3	5.1	-1.0	1.3	1.7	2.7	1.0	3.4
東北地方	1.4	1.6	3.3	-0.2	1.6	1.8	1.6	0.0	1.5
関東甲信地方	0.1	1.5	2.5	0.0	2.5	1.6	0.1	-1.0	0.9
北陸地方	-0.2	2.5	2.6	-0.3	1.9	1.0	0.1	0.6	1.6
東海地方	0.0	1.5	1.8	0.0	1.8	1.0	0.0	-0.3	0.8
近畿地方	-0.5	2.4	1.8	-0.4	1.5	1.0	-0.1	0.9	0.8
中国地方	-0.3	2.8	1.6	-0.8	1.8	1.4	0.5	1.0	0.2
四国地方	-0.4	1.5	1.6	-0.6	1.4	0.6	0.2	0.1	1.0
九州北部	-0.2	2.5	1.3	-0.7	2.1	1.4	0.5	0.4	-0.1
九州南部・奄美地方	-0.7	1.3	0.7	-0.2	2.1	0.6	-0.5	-0.8	0.1

平年差

+2℃以上

+1℃以上

-2℃以上

-1℃以上

前年差

+2℃以上

+1℃以上

-2℃以上

-1℃以上

5月日照時間の特徴：北・東・西日本でかなり多かった

上旬：北日本太平洋側と東・西日本でかなり多く、北日本日本海側では多かった。

中旬：北日本と東日本日本海側でかなり多く、東日本太平洋側と西日本日本海側では多かった。

下旬：北日本太平洋側と東・西日本、沖縄・奄美でかなり多く、北日本日本海側では多かった。

2018年5月との比較：特に上旬と下旬では、全国的に前年よりかなり日照時間が多かった。

	日照時間 平年比（％）						今年と前年との差（％）		
	2019年5月			2018年5月（前年）			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北海道地方	114	169	138	60	93	137	54	76	1
東北地方	148	173	138	57	103	122	91	70	16
関東甲信地方	133	134	133	90	157	94	43	-23	39
北陸地方	157	175	142	63	98	108	94	77	34
東海地方	149	122	131	101	148	82	48	-26	49
近畿地方	146	135	136	93	125	90	53	10	46
中国地方	147	129	132	85	103	93	62	26	39
四国地方	144	112	126	102	130	66	42	-18	60
九州北部	133	134	133	97	108	79	36	26	54
九州南部・奄美地方	115	70	151	97	139	66	18	-69	85

平年差

平年比150％以上

平年比125％～149％

平年比50％以下

平年比51％～75％

前年差

+50％以上

+25～49％

-50％以下

-25～-49％

5月降水量の特徴：西日本日本海側でかなり少なく、北・東日本日本海側と西日本太平洋側で少なかった

上旬：西日本でかなり少なく、東日本で少なかった。

中旬：北日本でかなり少なく、東日本と西日本日本海側では少なかった。一方、西日本太平洋側と沖縄・奄美では多かった。

下旬：東日本太平洋側でかなり多く、北日本太平洋側と東日本日本海側では多かった。一方、西日本と沖縄・奄美では少なかった。

2018年5月との比較：上旬は全国的にかなり降水量が少なく、中旬は北・東日本を中心にかなり降水量が少なかった。

	降水量 平年比（％）						今年と前年との差（％）		
	2019年5月			2018年5月（前年）			上旬	中旬	下旬
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬			
北海道地方	113	4	85	189	138	56	-76	-134	29
東北地方	59	20	165	155	287	54	-96	-267	111
関東甲信地方	64	21	167	286	82	62	-222	-61	105
北陸地方	39	29	148	182	136	0	-143	-107	148
東海地方	23	59	221	265	91	63	-242	-32	158
近畿地方	24	31	144	185	125	102	-161	-94	42
中国地方	11	53	23	206	0	78	-195	53	-55
四国地方	15	97	50	235	65	74	-220	32	-24
九州北部	10	42	55	211	0	45	-201	42	10
九州南部・奄美地方	56	283	19	205	53	121	-149	230	-102

平年差

平年比150％以上

平年比125％～149％

平年比50％以下

平年比51％～75％

前年差

+50％以上

+25～49％

-50％以下

-25～-49％

気象庁ホームページ・報道発表資料「5月の気候」参照

平年値は過去30年（1981年～2010年）の平均

スーパーマーケット統計事務局作成

スーパーマーケット景気動向調査

2019 年 6 月調査結果（5 月実績）
（2019 年 6 月 21 日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1. 経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2. カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査 DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比(%)に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

【景況感調査】

1. 景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ・2～3ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
- ・今後2～3ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

景況感 DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比(%)に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

6 月調査（5 月実績）結果概況

景気判断 DI 見通し判断はやや改善も、前月水準で推移

5 月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断 DI 現状判断は前月から+0.1 の 45.1、見通し判断は前月から+0.8 の 43.6 となり、共に小幅ながら 2 ヶ月連続で改善をみせた。

経営動向調査では、売上高 DI、収益 DI 共に小幅に上昇したものの、マイナス圏での推移となった。青果の相場が前年並み回復したことで生鮮仕入原価 DI が 3.0、食品に値上げが相次いでいる食品仕入原価 DI は 6.6 と共にプラス圏で推移していることが支えとなった。来客数は、GW 期間の帰省客の恩恵を受けた店舗と来客数減少となった店舗にわかれた。

カテゴリー動向調査では、青果相場の回復により青果 DI が-4.2 までマイナス幅を縮小したほか、好天により行楽需要が伸びた惣菜 DI が 4.6 とプラスになった。また気温の上昇により涼味商材の動きがよかった日配 DI もやや持ちなおした。ただし、GW 明けは消費が低迷したため全般的に伸び悩んだ。（カテゴリー動向については最終ページに詳細を掲載）

景況感調査には大きな動きはみられず、前月水準内での動きとなった。ただし、昨年 10 月以降の悪化から小幅ながら 3 か月連続で改善したことで、短中期トレンドはわずかに上向き転換をみせた。（周辺地域景気動向 DI 長期傾向参照）

GW が異例の 10 連休となり、消費者の動きの予測が難しく、来客数に大きな影響を受けた店舗もみられた。一方で新元号祝賀ムードの高まりによる恩恵もみられた。近年、商品動向が、健康報道や社会の“ムード”から受ける影響も年々大きくなっている。天候や気温差に配慮するだけでなく、休日の過ごし方や消費者心理を予測できるかどうかが重要となっている。

景況感調査

現状判断

景気判断DI
当月：45.1 (+0.1)
前月：45.0

消費者購買意欲DI
当月：44.6 (-0.7)
前月：45.3

周辺地域 競合状況DI
当月：41.2 (-1.0)
前月：42.2

店舗周辺地域 景気判断DI
当月：45.3 (-0.1)
前月：45.4

見通し判断

景気判断DI
当月：43.6 (+0.8)
前月：42.8

消費者購買意欲DI
当月：43.8 (-0.1)
前月：43.9

周辺地域 競合状況DI
当月：40.7 (-0.6)
前月：41.3

店舗周辺地域 景気判断DI
当月：44.7 (+0.1)
前月：44.6

経営動向調査 経営状況

売上高DI
当月：-7.8 (+2.4)
前月：-10.2

客単価DI
当月：-0.6 (-2.8)
前月：2.2

来客数DI
当月：-10.0 (+3.6)
前月：-13.6

収益DI
当月：-9.1 (+1.5)
前月：-10.6

販売価格DI
当月：4.6 (±0)
前月：4.6

生鮮品仕入原価DI
当月：3.0 (+0.7)
前月：2.3

食品仕入原価DI
当月：6.6 (-0.3)
前月：6.9

カテゴリー動向

青果DI
当月：-4.7 (+3.4)
前月：-8.1

水産DI
当月：-4.0 (-3.3)
前月：-0.7

畜産DI
当月：-11.5 (-2.8)
前月：-8.7

惣菜DI
当月：4.6 (+3.6)
前月：1.0

日配DI
当月：-6.3 (+3.6)
前月：-9.9

一般食品DI
当月：-7.6 (-2.4)
前月：-5.2

非食品DI
当月：-6.8 (+6.7)
前月：-13.5

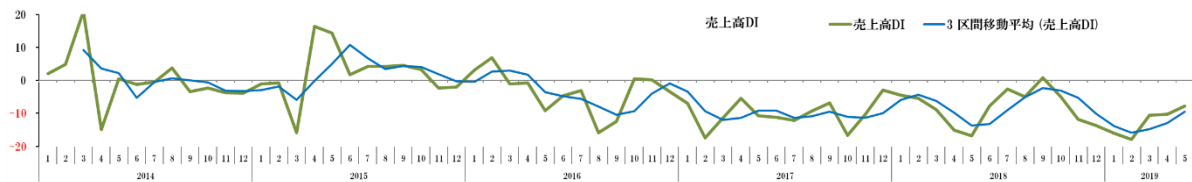
○ 内は前月 DI との増減、赤字はマイナス

6月調査（5月実績）結果詳細 I. 経営動向調査（2014年1月～）

1. 売上高DI

マイナス幅を縮小も、低迷づく

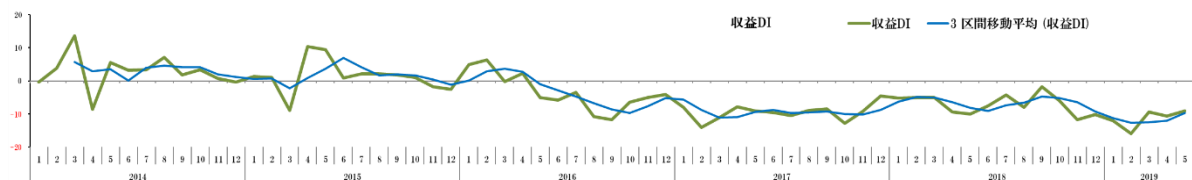
回答構成比（％）	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高（前月）	11.3	40.3	27.4	19.9	1.1	-10.2
売上高（当月）	11.2	34.1	30.2	24.0	0.6	-7.8



2. 収益DI

マイナス幅をやや縮小も、低迷つづく

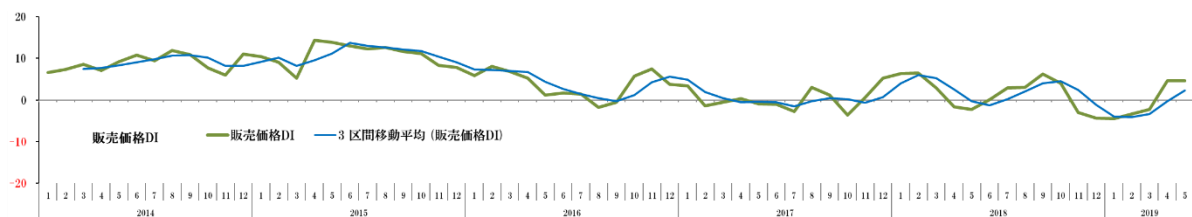
回答構成比（％）	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益（前月）	10.5	39.8	33.1	14.9	1.7	-10.6
収益（当月）	11.4	37.5	29.0	20.5	1.7	-9.1



3. 販売価格DI

前月から同水準を維持し、プラス圏での推移

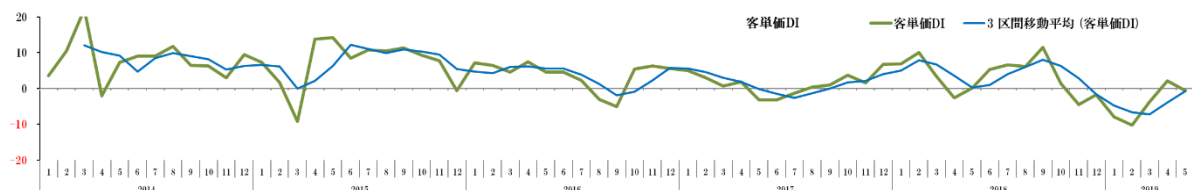
回答構成比（％）	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格（前月）	0.0	11.4	58.9	29.7	0.0	4.6
販売価格（当月）	0.0	10.6	60.6	28.9	0.0	4.6



4. 客単価DI

小幅に低下し、マイナス圏に

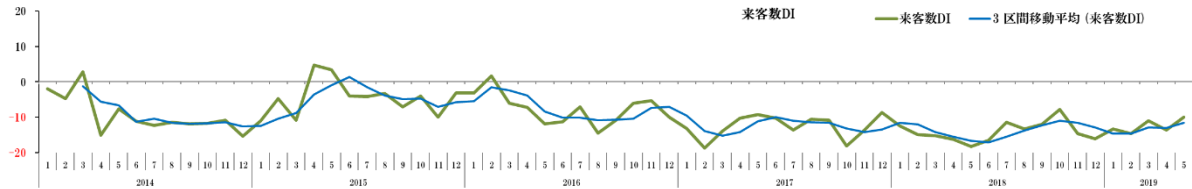
回答構成比（％）	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価（前月）	1.1	23.8	41.6	32.4	1.1	2.2
客単価（当月）	1.1	27.2	45.6	25.0	1.1	-0.6



5. 来客数 DI

やや上昇するも、マイナス圏で低迷つづく

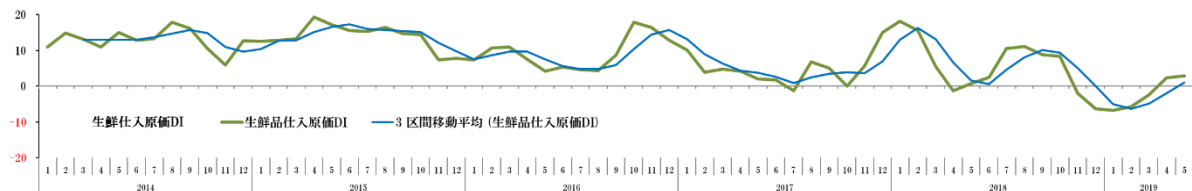
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	10.3	50.0	25.5	12.0	2.2	-13.6
来客数 (当月)	9.4	42.8	27.2	19.4	1.1	-10.0



6. 生鮮仕入原価 DI

やや上昇し、2 か月連続でプラス圏維持

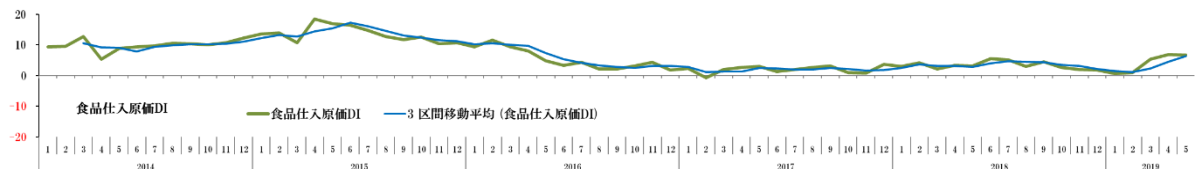
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	2.2	14.2	57.9	23.5	2.2	2.3
生鮮仕入原価 (当月)	1.7	11.9	61.0	23.7	1.7	3.0



7. 食品仕入原価 DI

前月から同水準を維持し、プラス圏での推移

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	2.7	8.7	48.9	37.5	2.2	6.9
食品仕入原価 (当月)	1.7	9.6	50.8	36.2	1.7	6.6

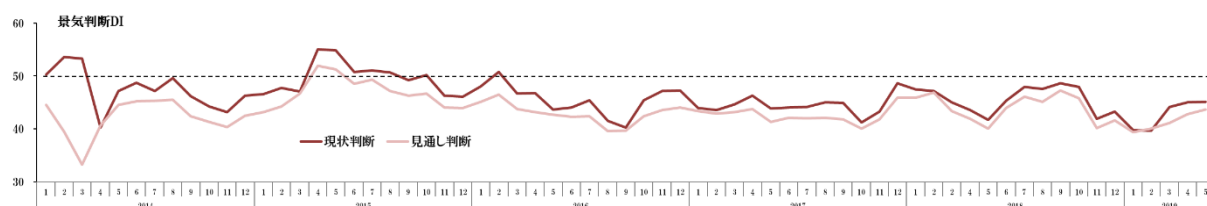


Ⅱ．景況感調査（2014 年 4 月～／周辺地域景気判断 2010 年 4 月～）

1. 中核店舗景気判断 DI

見通し判断は、小幅な改善をみせる

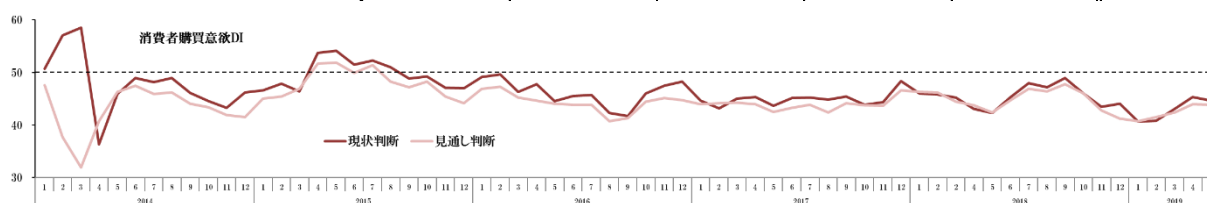
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景気判断（前月）	2.7	25.3	61.3	10.8	0.0	45.0
【現状】景気判断（当月）	3.9	24.6	59.2	11.7	0.6	45.1
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景気判断（前月）	4.3	28.1	59.5	8.1	0.0	42.8
【見通し】景気判断（当月）	5.1	24.9	61.0	8.5	0.6	43.6



2. 消費者購買意欲 DI

現状判断、見通し判断共に前月と同水準で推移

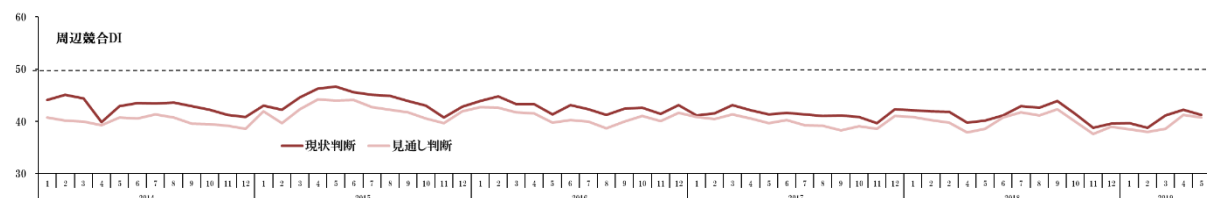
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲（前月）	2.2	22.6	67.2	8.1	0.0	45.3
【現状】購買意欲（当月）	3.3	22.8	66.1	7.8	0.0	44.6
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲（前月）	2.2	26.5	64.9	6.5	0.0	43.9
【見通し】購買意欲（当月）	2.8	24.2	68.0	5.1	0.0	43.8



3. 中核店舗周辺競合状況 DI

現状判断、見通し判断共にやや悪化

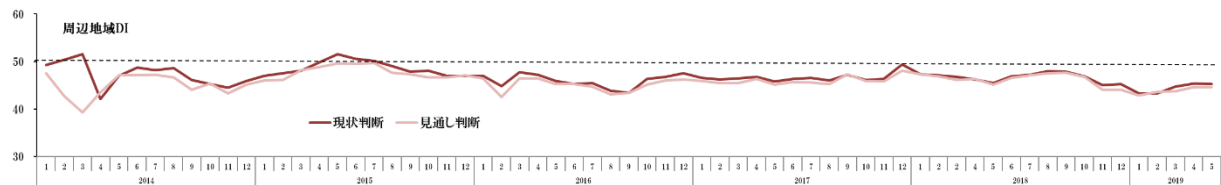
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況（前月）	5.4	23.7	67.7	3.2	0.0	42.2
【現状】競合状況（当月）	7.8	24.0	63.7	4.5	0.0	41.2
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況（前月）	6.5	25.3	65.1	3.2	0.0	41.3
【見通し】競合状況（当月）	7.9	24.2	65.2	2.8	0.0	40.7



4. 中核店舗周辺地域景気判断 DI

現状判断、見通し判断共に前月と同水準で推移

回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気 (前月)	0.5	19.1	78.7	1.6	0.0	45.4
【現状】地域景気 (当月)	0.6	21.7	73.9	3.9	0.0	45.3
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気 (前月)	1.1	21.2	76.1	1.6	0.0	44.6
【見通し】地域景気 (当月)	0.6	23.6	72.5	3.4	0.0	44.7



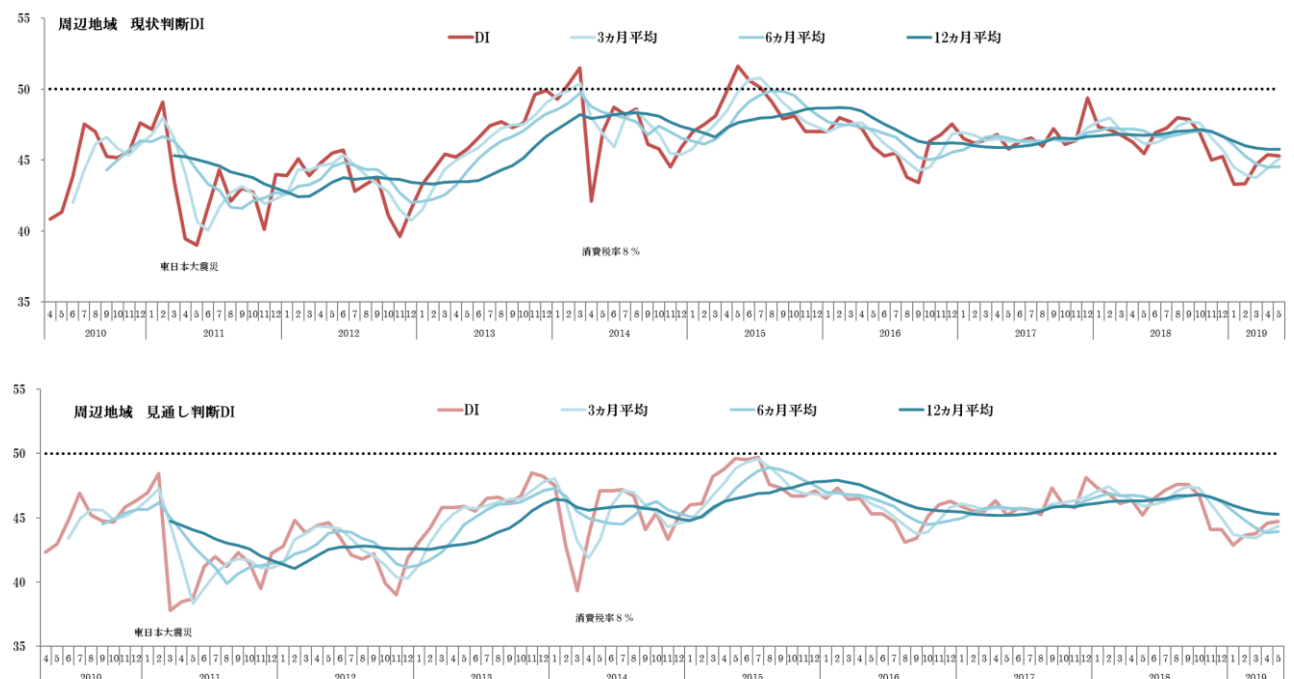
※長期傾向 (2010年4月～)

11年3月の東日本大震災後低迷を続けていたDIは、12年11月から16ヵ月にわたり改善が続き、14年3月には現状判断DIが51.5を記録した。

14年4月の消費税率引き上げにより大きく悪化したものの、その後徐々に持ち直しをみせ、2015年5月には調査開始以来の最高値を更新し、現状判断DIは51.6にまで達した。

しかしこれをピークとし、その後15ヵ月にわたり悪化傾向が続き16年9月には、現状判断DIは43.4まで低迷した。以降やや改善傾向が続いていたが、18年に入り悪化が続き、5月には移動線付近を下回る水準まで低下した。その後6月以降は持ち直し改善傾向が続いた。

10月から再び悪化幅を広げ、11月にはすべての移動平均線がマイナス方向に転換し、以降弱含みの推移が続いた。3月以降は小幅ながらやや持ち直しの動きを続けている。



Ⅲ. カテゴリー別動向

1. 青果DI：-4.7（やや不調）

回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果（前月）	12.4	33.1	31.5	20.8	2.2	-8.1
青果（当月）	9.9	32.7	26.3	28.1	2.9	-4.7

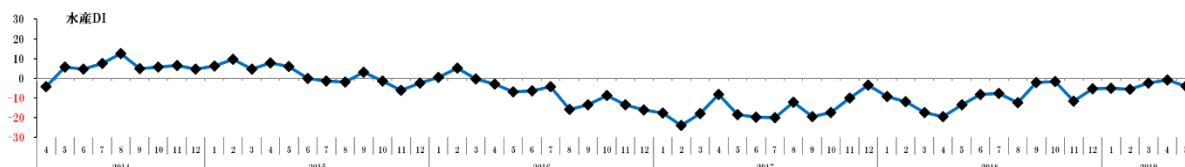


青果相場は前年並みに戻りつつあり、カテゴリー全体としてやや持ち直し傾向が続いている。

気温の高い日が多くなった地域では、トマトやキュウリなどのサラダ類やねぎやしょうがなどの薬味類が好調とのコメントが多い。引き続き、春物の豆類（グリーンピース・スナップエンドウ）や菌類の動きがよい。産直や地場野菜の取り組みが成果をあげているとのコメントが多い。果物類はすいかやキウイフルーツは好調だが、相場の高いバナナは不調となった店舗が多い。

2. 水産DI：-4.0（やや不調）

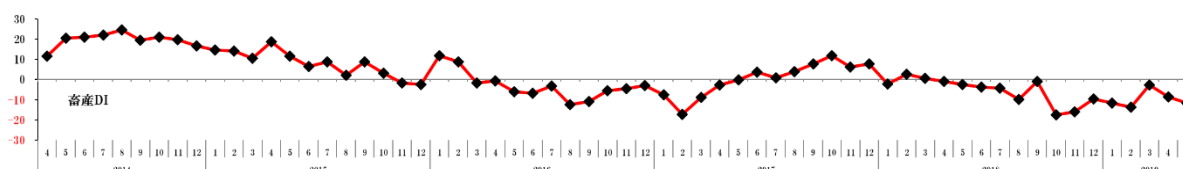
回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産（前月）	8.4	26.4	29.8	30.3	5.1	-0.7
水産（当月）	8.2	32.4	28.8	28.2	2.4	-4.0



GW 期間中はまぐろを中心に大型の刺身盛り合わせや冷凍エビなどの動きがよかった一方で、干物を中心に塩干類は動きが悪かった。イカ類は不漁により入荷不足と価格高騰で大きく落ち込んだ。メディア報道のあっためかぶなど海藻類が好調となった。かつおはアニサキス報道の影響がみられ、販売方法を工夫する店舗がみられた。

3. 畜産DI：-11.5（不調）

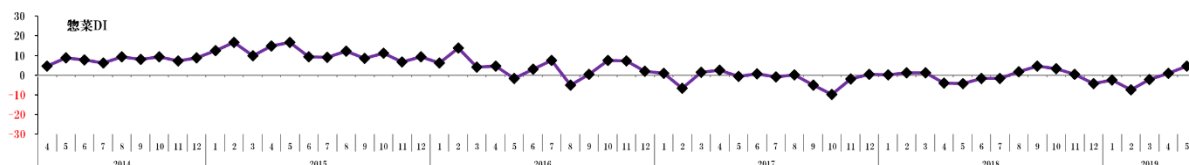
回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産（前月）	11.2	34.8	32.6	20.2	1.1	-8.7
畜産（当月）	11.1	43.9	25.7	18.7	0.6	-11.5



GW 期間中は、新元号の祝いムードも重なり、高単価商品が好調となった一方で、輸入肉は不調となった。牛肉は気温の上昇や好天による行楽需要でステーキ・焼肉用の動きがよかったが、うす切り肉は苦戦した。豚肉は国産相場がやや高騰しており、不調とする店舗が多い。鶏肉は相場安となっており、単価が下落しやや不調となった。ハムやソーセージなどの加工肉は価格競争の厳しさが加わり不調とする店舗が多い。GW に客数減少した店舗では影響を受けて全体的に伸び悩んだ。

4. 惣菜DI：4.6（やや好調）

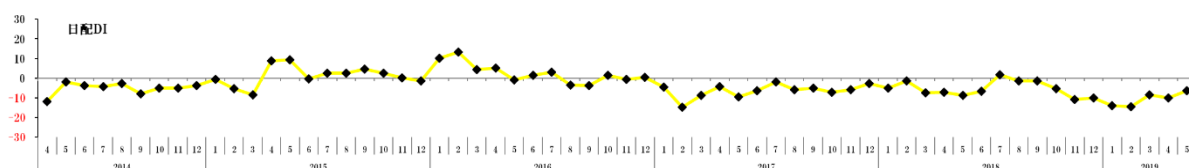
回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	6.3	23.3	36.9	27.3	6.3	1.0
惣菜（当月）	5.4	15.0	41.9	31.1	6.6	4.6



天候に恵まれた地域が多く、弁当やおにぎりなどの米飯類や寿司類、からあげ、おつまみなどが好調に推移した。気温が高く涼味関連の動きもよかった。GW 中は新元号のお祝い需要で寿司や赤飯、ローストビーフなどが好調となった。出来立ての提供やバイキング形式での販売などが新たな取り組みが成果をあげる一方で、人手不足により十分対応できないことへの不安もみられた。GW に客数減少した店舗では影響を受けて全体的に伸び悩んだ。

5. 日配DI：-6.3（やや不調）

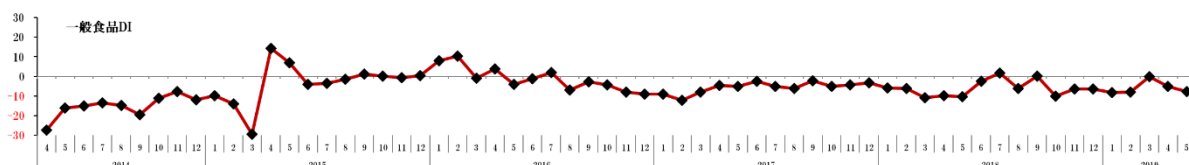
回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	11.3	36.7	33.3	17.5	1.1	-9.9
日配（当月）	9.4	31.8	35.3	21.8	1.8	-6.3



特に気温が高くなった地域では、アイスや飲料など涼味系商品、豆腐やところてんなど和日配の動きがよかった。一方で価格改定のあった乳製品やパン類などの洋日配カテゴリーは不調となった店舗が多かった。健康報道により好調だった納豆や漬物には一服感もみられはじめた。GW に客数減少した店舗では影響を受けて全体的に伸び悩んだ。

6. 一般食品：-7.6（やや不調）

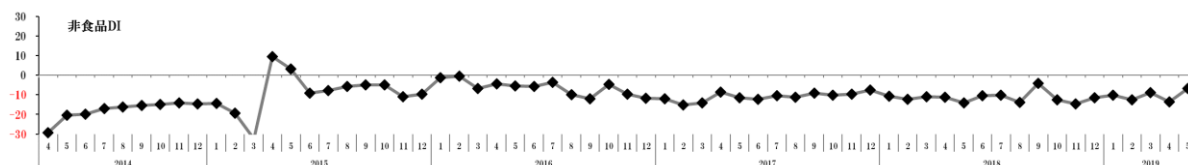
回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	7.8	30.2	39.1	20.7	2.2	-5.2
一般食品（当月）	9.3	34.3	35.5	19.2	1.7	-7.6



GW 期間中や行楽需要の高まった地域の店舗ではビールなどの酒類が好調となった。気温の上昇により熱中症対策飲料や素麺関連は好調となった一方で、スープ類やコーヒー類、菓子類の落ち込みが大きかった。また米類は価格訴求が激しくなっており、不調となった店舗が多かった。調味料は全般的に動きが悪い。一部店舗では乾麺に次月の値上げを控えて駆け込み需要もみられた。梅の出荷時期のずれにより酢や砂糖の販売に影響がみられた。ドラッグストアやディスカウントストアとの価格競争の厳しさへの指摘が目立った。

7. 非食品 DI：-6.8（やや不調）

回答構成比（％）	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	14.5	39.5	33.1	11.0	1.7	-13.5
非食品（当月）	8.3	31.0	43.5	14.3	3.0	-6.8



品薄状態となっている紙類が在庫を確保できた店舗では好調となった。気温の上昇により殺虫剤や熱中症対策商品が好調となった。電子タバコの売上が堅調であるとのコメントが多い。ホームセンターやドラッグストアなどの競合が厳しく低迷が続いている。

カテゴリー別 DI による好不調判断

かなり好調： ～ 20 好調： 20 ～ 10 やや好調： 10 ～ 0
 やや不調： 0 ～ -10 不調： -10 ～ -20 かなり不調： -20 ～

2019年6月調査（5月実績）キーワード TOP3

1. GW 期間（来客数に地域差大きい、祝賀ムード）
2. 天候要因（気温上昇、好天）
3. GW 後の消費低迷

スーパーマーケット景気動向調査 集計数

5月実績速報版 180社
 4月実績確報版 186社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局 tokei@super.or.jp